



## MESSAGE FETCHING SYSTEM FOR ELECTRONIC MAIL SYSTEM

Patent Number: JP2108346  
Publication date: 1990-04-20  
Inventor(s): YOSHINO YUSUKE  
Applicant(s): FUJI XEROX CO LTD  
Requested Patent: ☐ JP2108346  
Application Number: JP19880261855 19881018  
Priority Number(s):  
IPC Classification: H04L12/54; H04L12/58  
EC Classification:  
Equivalents:

### Abstract

**PURPOSE:** To efficiently fetch a message by selecting whether a message read from a mail box is erased or continuously preserved by means of a work station.

**CONSTITUTION:** The property key of a keyboard 12 is pushed, and a property sheet is displayed. The name of a possessor of a mail box 31 is described in the column on a first string, the various types of parameters are described in the respective columns of second to fifth strings, and whether the message once preserved in the mail box 31 is continuously preserved or erased is selectively described in the column on the sixth string. The property sheet is described by operating a mouse 11 and the keyboard 12. After the description, 'completion' on the upper side of the sheet is selected by the mouse 11, the respective parameters of the sheet are stored into a local disk in response to the selection, and the displaying of the property sheet on a display device 16 is erased.

Data supplied from the esp@cenet database - I2

⑩ 日本国特許庁(J P)

⑪ 特許出願公開

⑫ 公開特許公報(A)

平2-108346

⑬ Int. Cl.<sup>3</sup>

識別記号

庁内整理番号

⑭ 公開 平成2年(1990)4月20日

H 04 L 12/54  
12/58

7830-5K H 04 L 11/20

1 0 1 B

審査請求 未請求 請求項の数 1 (全5頁)

⑮ 発明の名称 電子メールシステムにおけるメッセージ取り出し方式

⑯ 特 願 昭63-261855

⑰ 出 願 昭63(1988)10月18日

⑱ 発 明 者 吉 野 祐 介 東京都新宿区西新宿3丁目16番6号 西新宿水野ビル 富士ゼロックス株式会社内

⑲ 出 願 人 富士ゼロックス株式会社 東京都港区赤坂3丁目3番5号

⑳ 代 理 人 弁理士 木村 高久

明 細 書

1. 発明の名称

電子メールシステムにおけるメッセージ取り出し方式

2. 特許請求の範囲

メールボックスを有するメールサーバとワークステーションとをネットワークを通じて接続し、前記メールボックスに一旦保管されたメッセージを前記ワークステーションにて読み出す電子メールシステムにおいて、

前記メールボックス内のメッセージを読み出すに際し、前記メッセージについて消去および保管のうちのいずれかを前記ワークステーションから前記メールサーバに指定する指定手段と、

該メッセージについて消去が指定された場合は読み出された該メッセージを該メールボックスから消去し、該メッセージについて保管が指定された場合は読み出された該メッセージを該メールボックスに保管し続ける手段と

を備えたことを特徴とする電子メールシステムにおけるメッセージ取り出し方式。

3. 発明の詳細な説明

(産業上の利用分野)

本発明は、電子メールシステムにおけるメッセージ取り出し方式に関する。

(従来の技術)

周知のように電子メールシステムにおいては、メールボックスを有するメールサーバとワークステーションとをネットワークを通じて接続しており、メールボックスに一旦保管されたメッセージをワークステーションにて読み出すことが可能である。

(発明が解決しようとする課題)

しかしながら、従来の電子メールシステムではワークステーションにてメッセージを読み出すと、これに伴い該メッセージがメールボックスから消去されていたので、同一のメッセージをメールボックスから繰り返し読み出すことができなかった。このため、例えばオペレータ自身のオフィ

スとは異なる場所のワークステーションにて該オペレータ宛のメッセージを読み出して簡単に内容を把握し、後にオペレータ自身のオフィスのワークステーションにて該メッセージを再び読み出して確認するようなことはできなかった。

そこで、本発明はメールボックスから読み出されたメッセージを該メールボックスから消去するかまたは該メールボックスに保管し続けるかをワークステーションにて選択することが可能な電子メールシステムにおけるメッセージ取り出し方式を提供することを目的とする。

#### (課題を解決するため手段)

本発明では、オペレータ宛のメッセージを該オペレータに割り当てられたメールボックスから消去するかまたは該メールボックスに保管し続けるかを指定するために、ワークステーションにて例えば該オペレータが用いる所定のプロパティシートにメッセージを消去するかまたは保管し続けるかを予め記入しておく。そして、ワークステーションにて前記メールボックス内のメッセージを

読み出すに際し、前記プロパティシートにメッセージを消去すると記入されている場合は、ワークステーションにおける中央処理装置からメールサーバに対しメッセージの消去が指定され、これに回答してメールサーバは前記メールボックスからメッセージが読み出された後、該メッセージを該メールボックスから消去する。また、前記プロパティシートにメッセージを保管し続けると記入されている場合は、ワークステーションにおける中央処理装置からメールサーバに対しメッセージの保管が指定され、これに回答してメールサーバは前記メールボックスからメッセージが読み出された後、該メッセージを該メールボックスに保管し続ける。

#### (作用)

本発明によれば、メールボックスから読み出されたメッセージは、ワークステーションにて消去が指定された場合に該メールボックスから消去され、またワークステーションにて保管が指定された場合に該メールボックスに保管され続ける。

#### (実施例)

以下、本発明の実施例を添付図面を参照して詳細に説明する。

第1図は本発明に係るメッセージ取り出し方式の一実施例を適用した電子メールシステムを示している。図面において、ワークステーション1はローカルエリアネットワーク(以下LANと称す)2を通じてメールサーバ3に接続されている。メールサーバ3にはメールボックス31が設けられており、このメールボックス31に一旦保管されたメッセージはLAN2を通じてワークステーション1にて読み出される。

ワークステーション1において、マウス11およびキーボード12は各種のデータ、および指令等を入力するものである。ローカルディスク13は編集されるデータ(文書)、階層構造から成るかな漢字変換用の辞書ファイル、文字のフォントを識別するデータおよび各フォントの表示用のビットマップ等を格納する。ランダムアクセスメモリ(以下RAMと称す)14はシステムの運用を

行うオペレーティングプログラム、マウス11およびキーボード12から入力されたデータ群や命令群、ローカルディスク13から読み出されたかな漢字変換用辞書ファイルや文字のフォントを識別するデータおよび各フォントの表示用ビットマップ等を格納する。表示制御装置15はCRT等のディスプレイ16を制御しており、RAM14内の文字のフォントを識別するデータに対応する表示用ビットマップ、および各種機能に応じたウィンド等を表示させる。中央処理装置(以下CPUと称す)17はプログラム格納装置18からプログラムを読み出し、このプログラムに基づいてローカルディスク13、RAM14および表示制御装置15を総合的に時分割制御するとともに、所定の演算および処理等を実行する。

さて、このような電子メールシステムにおいて、メールサーバ3内のメールボックス31は1人のオペレータに割り当てられており、このメールボックス31宛のメッセージが該メールボックス31に一旦保管される。そして、前記オペレータは

ワークステーション1にて所定の操作を行うことにより、メールボックス31宛つまり該オペレータ宛のメッセージを該メールボックス31から読み出すことができる。

ここで、メールボックス31からメッセージを読み出すためには前段階の操作として、第2図に示すプロパティシートを用いて各種のパラメータを指定しなければならず、このための処理を第3図のフローチャートに従って述べる。

まず、マウス11およびキーボード12のうちのいずれかを操作することによりログオンを行い、これによりオペレータ所有の各種のアイコンをディスプレイ16に表示し、これらのアイコンのうちから受信箱のアイコンをマウス11の操作により選択する(ステップ101)。この後、キーボード12の「プロパティ」のキーを押下する(ステップ102)。このような操作を行うと、ディスプレイ16には第2図に示したプロパティシートが表示される。

このプロパティシートにおいて、最初の列の欄

定していることになる(ステップ103)。

こうしてプロパティシートへの記入を終了すると、該シート上側の「完了」をマウス11により選択してクリックする(ステップ104)。これに回答して、このプロパティシートの各パラメータは受信箱のデータとしてローカルディスク13に記憶され(ステップ105)、この後にディスプレイ16画面上のプロパティシートの表示が消去される(ステップ106)。

このようにプロパティシートの各パラメータを設定すると、メールボックス31に一旦保管されているメッセージをワークステーション1にて読み出すことができる。この読み出しのための動作を第4図に示すフローチャートに従って述べる。

まず、ディスプレイ16に表示されている各種のアイコンのうちから受信箱のアイコンをマウス11の操作により選択し(ステップ201)、この後キーボード12の「開」のキーを押下する(ステップ202)。このような操作を行うと、ディスプレイ16には受信箱ウィンドが表示され

(Mailbox Name)にはメールボックス31の宛名として例えば該メールボックスを所有するオペレータの氏名が記入されている。また、第2列〜第5列の各欄には種々のパラメータがそれぞれ記入され、例えばメッセージボックス31にメッセージが届いたことをワークステーション1にて報知するための態様が記入される。さらに、第6列の欄(On Retrieval)にはメールボックス31に一旦保管されているメッセージについて保管し続けることおよび消去することのうちのいずれかが選択的に記入される。なお、このプロパティシートへの記入は、マウス11およびキーボード12を操作することにより行われる。

いま、前記第6列の欄「LEAVE COPY ON SERVER」の文字が黒地に白ぬきであれば、メッセージの読み出しに際して該メッセージをメールボックス31に保管し続けることを指定していることになる。また、「LEAVE COPY ON SERVER」の文字が白地に黒であれば、メッセージの読み出しに際して該メッセージをメールボックスから消去することを指

る(ステップ203)。

次に、メモリボックス31からメッセージを読み出すために、前記受信箱ウィンドに表示されている「新しいメール」をマウス11の操作により選択してクリックする(ステップ204)。これに回答して、CPU17はLAN2を通じてメールサーバ3が正常に動作しているか否かを確認する(ステップ205)。ここで、メールサーバ3が正常に動作していない場合、CPU17は表示制御装置15を介してディスプレイ16にメールサーバ3が正常に動作していないことを表示する(ステップ206)。

また、前記ステップ205においてメールサーバ3が正常に動作している場合、前記プロパティシートの第1の列に記入されている宛名のメールボックス31への呼び出しがワークステーション1からメールサーバ3に対して行われ、メールボックス31に一旦保管されている全てのメッセージが読み出されてワークステーション1に伝送される。このメッセージはローカルディスク13に

おける受信箱に格納される(ステップ207)。

このとき、前記プロパティシートの第6列の欄「LEAVE COPY ON SERVER」の文字が白地の黒であれば(ステップ208)、よって先に述べたようにメッセージをメールボックス31から消去することが指定されている場合、CPU17はメッセージを消去することをメールサーバ3に対して命令する。これに回答して、メールサーバ3ではメールボックス31内の既に読み出された全てのメッセージを消去する(ステップ209)。

また、前記プロパティシートの第6列の欄「LEAVE COPY ON SERVER」の文字が黒地に白ぬきであれば(ステップ208)、よって先に述べたようにメッセージをメールボックス31に保管し続けることが指定されている場合、CPU17はメッセージを保管し続けることをメールサーバ3に対して命令する。これに回答して、メールサーバ3ではメールボックス31内の既に読み出された全てのメッセージを消去せずに保管し続ける(ステップ210)。

#### (発明の効果)

以上説明したように本発明によれば、メールボックスから読み出されたメッセージは、ワークステーションにて消去が指定された場合に該メールボックスから消去され、またワークステーションにて保管が指定された場合に該メールボックスに保管され続ける。したがって、メールボックスから読み出されたメッセージを該メールボックスから消去するかまたは該メールボックスに保管し続けるかをワークステーションにて選択することができる。

#### 4. 図面の簡単な説明

第1図は本発明に係るメッセージ取り出し方式の一実施例を適用した電子メールシステムを示すブロック図、第2図は第1図に示したシステムにおけるディスプレイに表示するプロパティシートを示す図、第3図は第2図に示したプロパティシートへのパラメータ指定動作を説明するために用いられたフローチャート、第4図は第1図に示したシステムにおけるメッセージ読み出し動作を

こうしてメールボックス31からメッセージが読み出され、このメッセージがローカルディスク13における受信箱に格納されると、この受信箱に格納されたメッセージに基づいてディスプレイ16画面上の受信箱ウィンドの表示内容が更新される(ステップ211)。

この後、前記受信箱ウィンドに表示されている「閉じる」をマウス11の操作により選択してクリックすると(ステップ212)、これに回答してディスプレイ16画面上の受信箱ウィンドの表示が消去される。

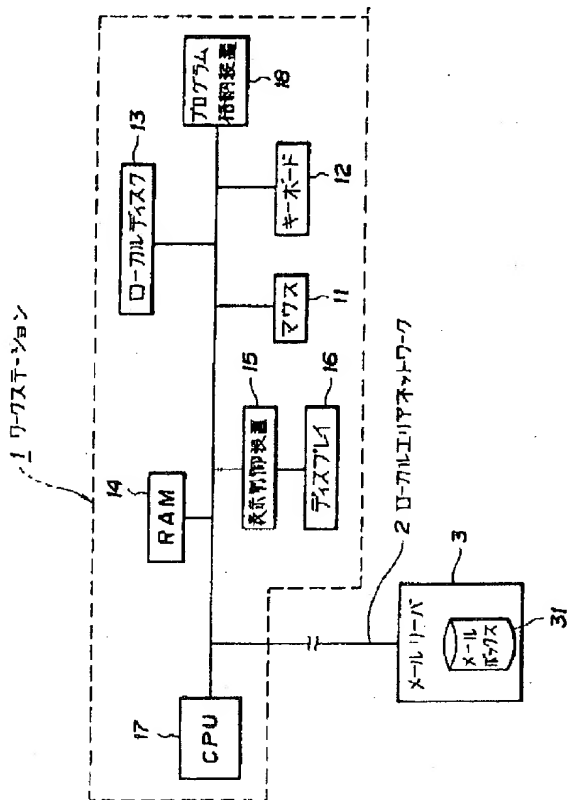
このように本実施例ではメッセージをメールボックスに保管し続けるかまたはメールボックスから消去するかをプロパティシートに予め記入しておく、読み出されたメッセージはメールボックスに保管され続けるかまたはメールボックスから消去される。したがって、メッセージを保管し続けることをプロパティシートに予め記入しておけば、同一のメッセージをメールボックスから繰り返し読み出すことが可能となる。

説明するために用いられたフローチャートである。

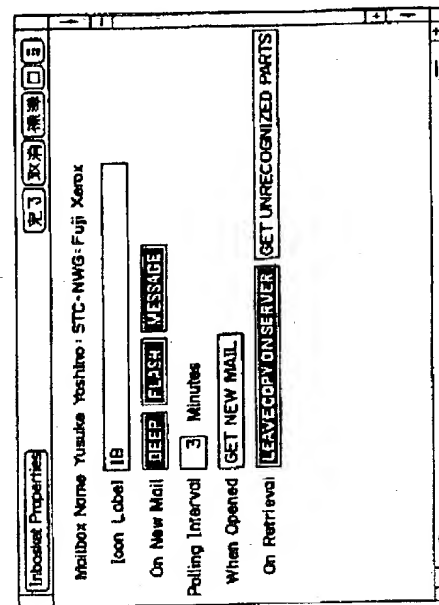
1…ワークステーション、2…ローカルエリアネットワーク、3…メールサーバ、11…マウス、12…キーボード、13…ローカルディスク、14…ランダムアクセスメモリ、15…表示制御装置、16…ディスプレイ、17…中央処理装置、18…プログラム格納装置。

出願人代理人 本 村 高 久

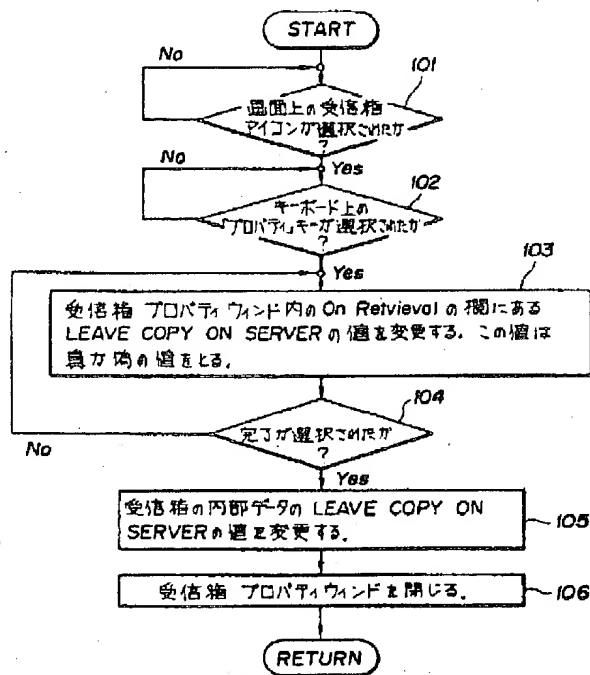




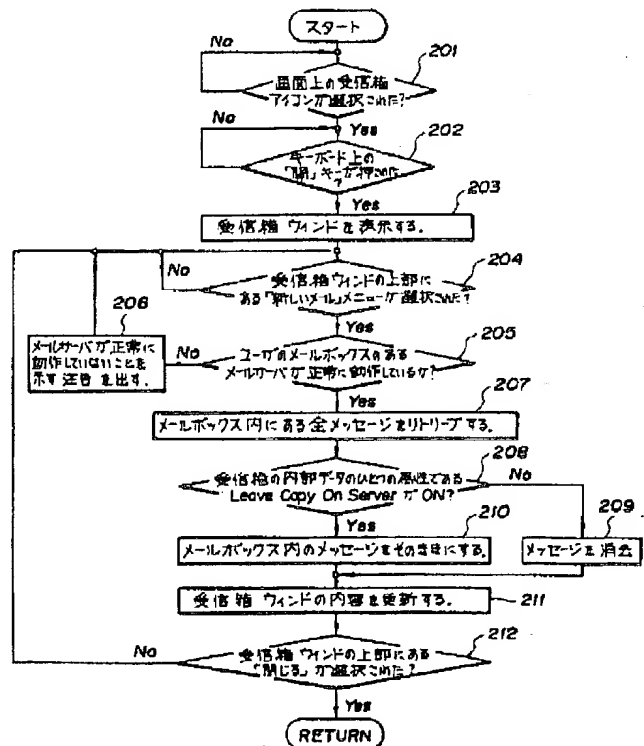
第 1 図



第 2 図



第 3 図



第 4 図